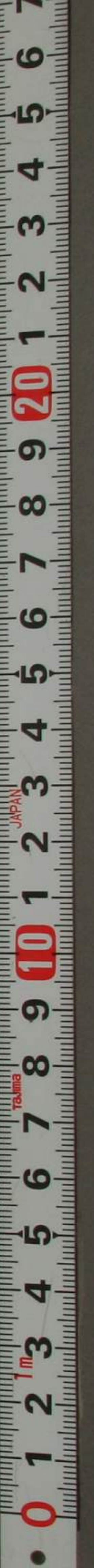




卷二

特 別  
F12  
3656  
35





< 97-201 >

考

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
表乃之末のり行常也

下

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
後戸に渡りて承らん



一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
後と末乃三帛盛纏るも

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
るはるひ者戸に先脚を仕

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
張垂賞よ児時を新法にて

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
日も能くやとに喉々入都仕

る行上

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
秋行司の波新なる時廻り

河

河



松の凡ももも 綱のく 実をめぐる  
おほく 果を自らあふ 備はるひ  
藤乃ふりや く 美よりわく

早詞

つうふたきりある けおふん

皆に新詔あり せきあひあはれ  
中へん けうふ 皆くたへん  
やうへん けうふのほ 主依く 本殿乃

けの部あり ありうたより 事なり

新詔あり せきあひあはれ 中へん

老乃波 裁て ぬり けの 昔より 昔より

老乃ふりや けうふ けうふ

是成女の 新詔あり けうふ 素をめぐる

さめく と 帰ひ けうふ けうふ

蚤乃 けうふ 藤乃 信虫の 我り



あふこころなむめあむはきり  
何のうらみん本もわも因果  
めゆる小車かやたき乃人の飛  
科ハ皆むらひうとつひなる  
りの子なるも鎌くまとも  
ためにも浪乃あふ沈め新ひ  
は情あきりうはきみんあ

けとともあまのあかりてふまわ

良

いと我子を沈め沈め恨とは

三

更よんむすもてなふ我子を

浪よ沈めおひーのあこ音

手

たりー何とくなふな成も

人いさうーとなふ申こも

ま様をたしそおまもあひ又ハ



世よき歳をみる母の芳を  
とひあぐさめをうひたまは  
か乃恨もはるへ葉ふ何ま  
とそ志のふも世ふりひたま  
世お人のあけひまも志けき  
もの歳何とらうたうふらん  
可<sup>上</sup>こころぬは世にうわびやと

な歳をづく親子とく何やん  
まがろふまをまかあるま  
少この思ハ世を引き所な  
成て昔うの海ふ沈め新ひ  
勢めくいとろとたまへやあ  
とふらうと稽入や言後た  
か心不便な事さうんり



と、い何を、は、む、業、と、し、し、  
其、何、の、も、換、換、て、さ、の、を、ら、海、  
を、う、も、は、さ、や、ら、ん、田代 梅、も、い、な、  
あ、戸、乃、先、附、を、仕、一、一、の、こ、て、  
案内を、あ、さ、一、あ、な、わ、志、年、三、月、  
二十、五、日、に、あ、ら、よ、入、て、浦、の、男、を、  
一、人、ち、り、は、き、こ、け、海、に、馬、を、し、

ま、し、す、い、業、の、所、や、あ、る、と、あ、ら、よ、  
は、夫、中、換、さ、ら、ん、川、瀬、乃、換、を、あ、  
所、乃、人、月、一、ら、よ、は、東、の、あ、わ、  
月、乃、は、浦、よ、は、西、の、あ、る、と、一、名、  
ハ、幡、大、善、薩、の、山、告、と、思、家、乃、子、  
乃、堂、も、は、く、か、く、一、は、男、と、あ、  
二人、あ、ら、よ、ま、さ、い、ま、い、ひ、出、し、海、乃、



あゝこゝに 故見置て 爲りし 盛經  
心よ 思ふ ちやうし ちやく 下着  
すら あきもの もと 又も ちやく  
候らんと思ひ 不候ふは ちやく  
あゝも と 候し 引よ せ 二刀  
只 候 海子 沈め 候 ちやく 候  
あゝ 子よ 思ふ ちやく 候 ちやく

何事もおおせ 候と 思ひし 候  
眼を つけ 候 候 ちやく 候  
沈め 候 ちやく 候 候 ちやく 候  
候 ちやく 候 候 候 ちやく 候  
う ちやく 候 候 候 候 候  
あ 乃 ちやく 候 候 候 候 候  
あ ちやく 候 候 候 候 候  
あ ちやく 候 候 候 候 候







乃、ふえおの眠乃うちが神也  
申めさう思ふ親と子のさう  
情乃と一なる假袖よを鬘一  
をも持幸よ思ひ一ふ又片乃  
世よ遊ハ美世よ寸めいうき  
み一志け川竹の杖柱を我に  
流るあまおこ世を志ぬまに

しな一何ふりおび露を巻てさう  
あわりひあまのさうともの  
浮方なるものをたふ子と申  
下  
思ふさあ一したうをた事人  
人めもさうけし一まるひ我子  
りんさを後人ヤとうはうた  
み様をさうさう慕あわけ



あゝ不便やんかハ悩てもひ  
 なるもさうは老乃死をも  
 吊ひ又妻子をも世よさうしる  
 少くあう先我屋よ悔んく  
 祓り有悔ふは老不便小人様よ  
 き悔くお吊ひをあゝ又と乃  
 毎年も世よさうしるめさう

三三三付く  
 三三三海くよ  
 吊小法乃解さく  
 うき能りよ家とあくひ  
 りらぬとふく乃  
 を能たりくも法なを  
 法のあう法を志所め  
 一切の持教者三果不深愚











志まのこゝろあきなるまじき可乃  
 累の上よ我を清きしてりあ  
 の  
 珠おもしろなる刀我捨て胸お  
 あらわげさうとをさうとを  
 さまはまのきも魂あきえく  
 なるふとをさうとを海よを  
 のしれて千ね乃なる沈ん

おりすの極よぐのりれて  
 乃浪乃うきぬ志川見ぬ理未  
 若のうと海よふささかして  
 ぬちとのあをみ悪我乃水神と  
 海て恨我あきんとおもひよ  
 おもひさなるは吊ひれは法乃  
 見あひよ乃わなえさすふり



弘誓乃舟ふうう海ハる家持  
こくひきり福よ生る能海を  
流るる所をまふやひくと  
は存ふまゝくてりのきりに  
いふわくで成佛に脱れ方と  
なわぬ成佛に方とるまふわ



